

# 稗原川を作ろうよ！

出雲市立稗原幼稚園（島根県出雲市）

[4歳児]

「もういい…」（5月初旬）

- 子どもたちは「電車やトンネルを作ろう」「コースが作りたい」と取りかかるが、ひとしきり遊ぶと次の日は見向きもしなくなる。ぐらぐらするトンネルでも「これでいい」と諦めがち（作業中止、使って遊ばない）で、工夫したり、遊びを続けようとしたりする様子が見られない。
- 保育者はダンボールや長い紙などいろいろな素材を出したり、一緒に遊んだり、「もっとこんなふうにしたら？」と提案したりした。「楽しんで遊んでいたはずなのに、遊びが日によって変わる。どうして続かないのか」「本当にやりたい遊びが見つかっていないのでは」と悩む。
- 女児のイモリごっこをヒントに、「イモリになって田んぼに行ってみよう」と地域の自然へ出かける。

幼児の姿（遊びのつながり・発展） 保育者=T

・保育者の援助・環境の構成 ☆考察

「どこまでつながっているのかな」（5/19）

近くを流れる用水路に行く「小さい川がある」（気付く）

A児：「どこまでつながってるのかな？」（興味をもつ）

他児：「行ってみよう」

B児：「幼稚園までつながってるよ」

C児：「あれ？ 行き止まりだ」A児「音が聞こえる」（音を感じる）他児「ジャバ、ジャバ」「ここはサーっていってる」「川の声がした」「あ、川につながってる！」

T：「大きい川」「サーって音がするね」他児「もっと近くまで行ってみたい」

・「行ってみたい」「どこまでつながってるのかな」という幼児のワクワクする気持ちを大事に受け止め、幼児の発見と一緒に楽しんだり、驚いたり、共感したりする。



「川を作ろう」（5/20）

・保育室のダンボールを見つけ、「川を作ろう」と遊び出す。（材料を使って作ってみたい）

A児・B児・C児：「つながった！」

T：「通れる？」「これからどうするの？」

A児・B児・C児：「つなげる」「長くする」とは言うが、遊びが続かず中断する。

・ダンボール、ガムテープ、ダンボールカッターなど準備する。

☆園外保育をきっかけに川は作ったが、川の楽しいイメージや「～したい」という思いがなく遊びが続かない。「川らしく作って欲しい」Tと、「材料や道具を使ってみたい」幼児で、相互の思いにズレがある。

「川をつなごう、長くしよう」（5/28）

・ダンボールを開き、川の側面に長くつなげようとする（目当てをもつ・やってみようと試す）。

B児：「立った！」と言うが、

C児：「うまく立たないな」「倒れそう…」

T：「倒れないようにするのはどうしたらいいかな」「何か使えるものはないかな」

C児：「これがいい！」と積み木を支えにする（やり方が分かり、工夫してみようという気持ちになる）。

・他児は自分たちで切ったり、並べたりしながら（自分のやり方で試す）遊びを続け、イモリの家まで川をつなげる。中に入ったり、通ってイモリの家まで行ったりしながら楽しそうに遊ぶ。

・ダンボール以外の物でも立てる方法があることを知らせ、自分たちで考え使える用具（積み木や椅子など）を近くに置く。

☆目に付く場所に材料や用具があることで、選んだり、やり方を工夫したりすることができる。

☆「～したい」という目当てはあるが、技術的にできないためにやる気が失われることもあるので、タイミングをみて、教えることも大事であるとわかる。



「稗原川は、坂になっているよ」（6/5）

・地域を流れる大きな稗原川に行く。「稗原川は、どうなってるのかな？」「つながってたね」「大きい！」「ゴーって大きい音がするね」（発見）（驚き）

A児：「あそこ！ 泡が出てる」

C児：「川の中が坂になっているよ」（遊びのヒントを見付ける）目を輝かせて見る。

・帰り道、急に空が暗くなり遠かった雷の音がどんどん近付き、大粒の雨が帰園した瞬間降り出す。（自然の迫力を感じる・感動）

・本物の川を見に園外に出かけた。川の中の段差や泡が出ている様子に興味をもつ子どもの視点を室内での川のイメージにつなげる。

☆大きな川の流れ、刻々と変化する雨雲など自然の迫力を感じ、共に驚いたり、感動したりする。



「坂には、あれがよさそう」（川の中の工夫が始まる）

C児：「坂にはあれ（踏切板）がよさそう」（遊びの工夫）  
 B児：「この白い物（発泡スチロール）は泡に使えそうだよ」（本物らしくする工夫）（イメージに合う材料を探したり、選んだりする）  
 （片付けの時間）  
 B児：「川に鍵かけておこう」川のダンボールを閉じて鍵をかけるまねをする。  
 A児・B児・C児：「入ったらだめだよ！」イモリごっここの友達に伝える。  
 （遊び場に愛着をもつ・遊びの継続）



- 子どもたちのつぶやきから、川への興味関心を探り、予想される遊び（川の段差、泡）にふさわしい材料や用具（板や技巧台、発泡スチロール玉、クッション材など）を準備する。
- 自分たちで材料を探そうとする姿、自分たちの場所を大切にする姿を認め、面白い川作りができるように励ます。

「稗原川みたい」（川のイメージが外の砂場へつながる）（6／9）

・園庭で5歳児がダイナミックに川を掘って水を流す様子を、砂場のA児・B児・C児がじっと見ている。（5歳児の様子に興味をもつ）  
 ・ペットボトルに水を入れて川に流すが、すぐに浸み込んでしまう。  
 ・繰り返し流すが浸み込む。（まねる）  
 5歳児：「もっといっぱい流さんと向こうまで行かないよ」  
 A児・B児・C児：「いっぱい流そう」バケツに持ち替え（道具を変える）何度も水を運ぶ。  
 A児：「泡が出た！」  
 B児：「泥が水で溶けるよ」「水流すと渦巻きができるよ！」「稗原川みたいだ！」（稗原川の様子と砂場の遊びがつながる・イメージの広がり）



- 5歳児の遊びと一緒に見ながら、どんなことに興味をもち、面白そうと感じているのかを探る。
  - 砂場の近くに大きなスコップやバケツを準備しておき、ダイナミックに遊べるようにする。
- ☆稗原川の様子を見たことで、具体的な川のイメージをもつことができ、砂場での泡や渦巻きなどを見逃さず、稗原川のイメージに結び付けながら、遊びを続けることができた。

「広くしたい」「深くしたい」（6／13）

「今日は川を広くしたい」「深くしたい」と川を掘る。（目当てをもって遊ぶ）（稗原川のようにしようと深く、広く掘る）  
 T：「こんなふうに体をいっぱい動かしてやってみようか」「その堀り方いいね」  
 B児・C児：「だんだん広くなってきた！」  
 C児：「水をかけると掘りやすくなるよ」「泡が出た！」「わあ、坂道の川ができた」（遊んだ後の話し合いタイム）  
 T：「今日の稗原川はどうなった？」  
 B児：「始めはこのくらいだったけど、このくらいになった」手で川幅を表す。A児・B児・C児：「いっぱい掘った」と、全身を使って掘るまねをする。（身振りで表す・伝える）

- ダイナミックな砂遊びができるよう掘り方について具体的な言葉で認めたり、励ましたりした。
- 話し合いでは、川の広さや深さが、周りの子どもたちにも伝わるような問いかけをし、掘り方を身体表現でした時には、掘る動きをみんなでまね、全身を使って遊んだ様子を伝えるようにした。

「蛍のいる川」「魚釣りもしたね」（6月下旬）

C児：「稗原川には夜になつたら蛍がいるよ」（体験をイメージする）  
 3人で段ボールに穴を開け、黄色のセロハン紙を貼っていく。「わー、蛍みたいに光ってる」（試す・工夫する）  
 C児：「稗原川で魚釣りもしたね」（体験の想起）「魚や釣竿も作らなくちゃ」（新たな発想・イメージの広がり）

- 自分たちで考え、遊びを続けようとする姿や気持ちを励ます。
- 「ぼくたちの川」という思いを寄せて遊んでいる姿を見守り、その子なりの表現の仕方を認める。
- 川での経験（蛍や魚釣り）を具体的に聞くことで、遊び方や材料などのイメージが膨らむようにする。

## ポイント

子どもの遊びの様子に「工夫や持続が見られない」という保育の課題を捉え、保育者は遊びを支える援助をしています。そのため、子どもたちは身近な環境に興味をもって自分たちの遊びに取り入れ、次第に友達と目的をもって遊びを進めようになっています。本物の川で見たり感じたりしたことを園での創造的な遊びで再現することや5歳児の遊び方を取り入れることで、4歳児なりに考え合い工夫して遊び楽しさを実感しています。自然や物、友達とのかかわりや遊びを進める姿から、子どもたちを理解して遊びを支えるための保育者の分析は、「科学する心」の育ちを捉える視点に結び付いています。